

『寺子屋の聾師匠 柳澤文溪』

共同研究レポート発表 中根清隆・渡辺徳浩

日本のろう教育史に新しいページ?!

- 聾の寺子屋師匠
- 日本最初のろう教員? (小学校教員)
- 寺の住職になる (日本最初の僧侶?)



「柳澤文溪先生之墓」

■柳澤文溪とは？

旗本の幕臣であった柳澤淳吾（号・文溪）は突然28歳の時、聴力を失い聾者となった。家督は継げず隠居させられ、俗世を捨て妻？と流浪の旅に出る。その旅の果てに今の静岡県裾野市に辿り着く。

村人は氏が聾と云えども身振り手振りや筆談によって、文才を知る。村々の要請で寺子屋を開き、子らに手習いを教えた。

教え子が800名に達し、寺子屋だけでなく元幕臣だったため行政能力があり、村人の仲裁や奉行所への上訴文に助力、役人の怠慢監視など、地域に与えた影響力は大きかった。

時は明治に変わり、新しい学制発布を見届け、明治17年満70歳没。聾者の寺子屋師匠柳澤文溪の功徳を偲び、村人や門人が墓碑を建てた。

「江戸の教育力」高橋 敏著 発行・ちくま新書より

■特 徴

柳澤文溪（柳澤淳吾）1815年（文化12年）～1884年（明治17年）

旗本の幕臣。1843年（天保14年）26歳失聴、家督が継がれず隠居するが、28歳放浪の旅に出る。

1848年（嘉永元年）岩波村に住む。1849年（嘉永2年）村々の要請により深良村で手習い（寺子屋）を教えた。

1874年（明治7年）学制により小学校ができる。寺子屋をそのまま小学校に移し、教員になる。

●明治25年（1892）初めての聾教師（吉川金造・高木慎之助）よりも古い。43年前！

京都聾学校の創立は明治11年（1878年）

●寺子屋で聞こえる子供や村人に教えた。約26年間に教え子800人、門人・弟子100人！

●寺の住職になった。（日本初の僧侶？）

●墓は墓地内でなく、集会所の前に建っていた。

●墓碑裏に柳澤文溪の功績が漢文に書かれている。

■柳澤文溪の墓を巡る 2008年9月14日撮影



JR御殿場線岩波駅から徒歩途中、裾野市の名所・箱根用水（深良川）があった。

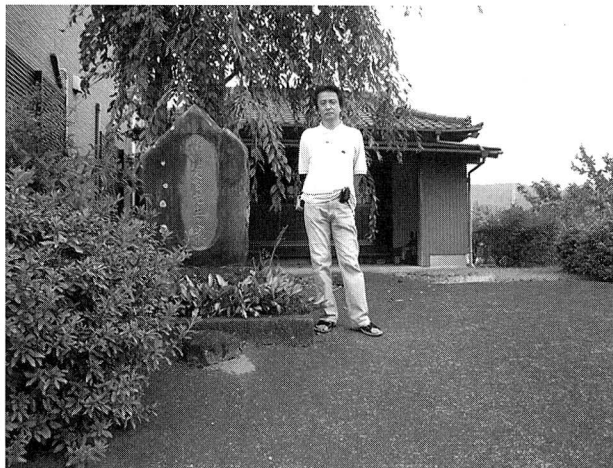
一級河川深良川。江戸時代の開発工事で、水源は芦ノ湖から引いているので珍しい川。



墓の右側にある小川



空に見えるのは箱根であります。



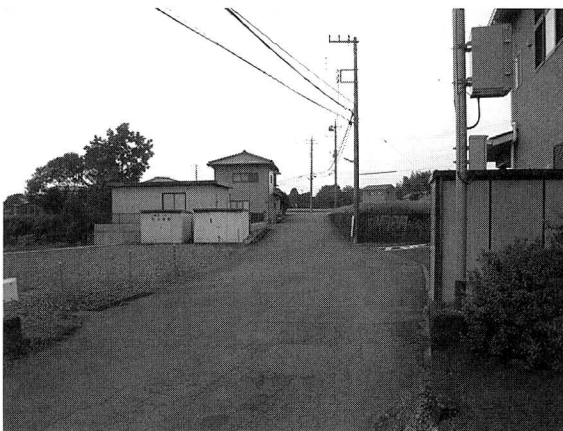
渡辺徳浩本人



墓裏に柳沢文溪の生涯について漢文が彫っており、「聾」が刻んであります。



全風景



向こうに富士山が大きく見える筈でしたが、曇り空で見えなかった。
静岡県裾野市深良地区・御殿場線岩波駅
付近

●墓碑が立派で功德を偲び、村人や門人が建てた。裏に漢文が刻まれていた。明治以降の聾教師に比べてこのような立派な墓がない。(長野県高遠町・伊澤修二の頌徳碑はあるが聴者なので除く)

●聾者でありながらお寺の住職になった。聾の僧侶はまだ聞いたことがない。
※どのようなコミュニケーションを取ったのであろう。当時は手話がないため、身振り手振り筆談の他、妻が空書や掌話法(手のひらでなぞる)で通訳を介したのであろう。



墓裏に漢文が書いているが、「江戸の教育力」にはわかりやすく訳している。



柳沢文溪像
上原小林義生氏蔵

■ 書 籍

参考資料

- 「江戸の教育力」高橋 敏 著 発行・ちくま新書 2007年12月
- 「深良郷土史」2004年
- 「深良地区の文化財めぐり」2008年
- 「裾野市史」1996年
- 「手習師匠柳沢文溪」大庭景申 1985年
- 深良地区郷土資料館
- 江戸寺子屋聾師匠・柳澤文溪の墓 (静岡県裾野市深良地区・JR御殿場線岩波駅付近)

